



岐阜陸上競技協会広報

第10号

2020年8月1日発行

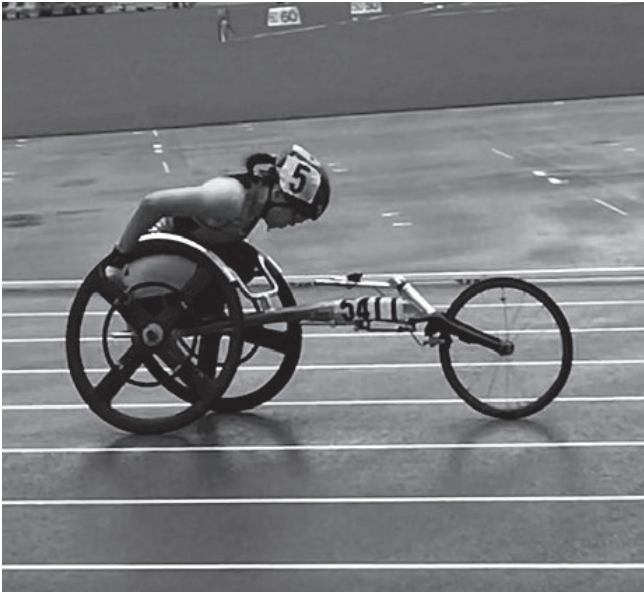
一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所／〒502-0851 岐阜市鷺山2562番地28

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp

2019 ジャパンパラ陸上・ 第88回 日本学生陸上 岐阜大会開催 岐阜県出身選手活躍!!



2019 ジャパンパラ陸上競技大会より



第88回 日本学生陸上競技対校選手権大会 開会式より

2020年度陸上競技協会挨拶 2頁～3頁

- ① 岐阜陸上競技協会 会長
- ② 岐阜陸上競技協会 専務理事

2019岐阜陸上競技協会活動報告 4頁～10頁

- ① 委員会 委員長
- ② 中体連 専門委員長
- ③ 高体連 専門委員長

2019年度地区陸上競技協会報告 10頁～13頁

トピックス 14頁～16頁

- 2019ジャパンパラ陸上総括
活躍した岐阜県出身選手たち
- 第88回日本学生陸上総括
活躍した岐阜県出身選手たち



「2020年シーズンを迎えて」

一般財団法人岐阜陸上競技協会 会長 尾藤 義昭

平素より、本協会の活動に、ご支援とご協力をいただき心よりお礼を申し上げます。

2019年年明け早々の2月に永井寛元参与、田中猛元参与、そして、9月に浅野三郎参与、10月に石原好之参与がご逝去されました。永井寛元参与、田中猛元参与、浅野三郎参与におかれては昭和の岐阜国体期に岐阜陸上競技協会、県高体連陸上競技部の発展に貢献されました。石原好之参与は平成の岐阜国体期に施設用器具委員長として県下のトラック&フィールド、道路競技コース検定に活躍され、ぎふ清流国体をはじめその後の全国大会クラスの競技会を開催できる競技場整備にご尽力をいただきました。故人のご功績に感謝を申し上げ心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、暖冬といわれた冬も明け、いよいよ「2020東京オリンピック・パラリンピック」のシーズンとなりました。日本中の陸上競技関係者が最も活気づくところですが、残念なことに新型コロナウイルスの猛威が世界を覆い「2020東京オリンピック・パラリンピック」は延期となりました。多くのイベントや各種スポーツ大会の中止、延期や学校教育の休校措置など、感染拡大防止

のために私たちの平常の生活にも変化を余儀なくされている状況です。

本協会もそのような情勢下で日本陸連からの要請もあり6月末までの競技日程すべてを中止して活動を休止せざるを得ない状況となりました。今シーズンに夢を馳せた選手・指導者の皆さんをはじめ本県の陸上競技関係者の方々には予想もなかった事態に戸惑われているかとも思います。しかし、今は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎ本来の生活を取り戻すために、陸上競技のトレーニングで培った自己管理能力を十分に発揮し、地域社会の一員として新型コロナウイルスの感染拡大防止活動にご協力をいただきたいと思います。

そして、このような時にこそ自分の夢や希望をしっかりと持ち、日々の健康を維持することが大切であると思います。必ず競技会再開の日はやってきます。その時を楽しみにして今の困難を乗り越えていただきたいと思います。協会としてもその日を迎えるために準備をしながらこの難局を乗り越えていきたいと考えています。

最後になりました、新型コロナウイルスに感染された方々の一日も早いご回復と、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げ2020年度のご挨拶といたします。



「2020年度を迎えて」

一般財団法人岐阜陸上競技協会 専務理事 黄倉 寿雄

はじめに、2019年に永井寛元参与、田中猛元参与、浅野三郎参与、石原好之参与の方々のご逝去されました。私たちの年代は故人の方々の活躍される姿に導かれて岐阜陸上界で育てていただきました。機会あるごとに多くのことをご教授していただきました。心よりお礼を申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

さて、2019年度は本協会理事の改選年でした。定年制度によりベテランの理事の方々が退任され新しい理事に業務を引き継ぐなかでの1年間でした。その為に協会員の皆様には例年にも増してのご支援ご協力を賜ることになりました。皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

事業として、2019年度は「天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラ(ワールドパラ公認)」(以後ジャパラ)、「第88回天皇賜杯日本学生陸上競技対校選手権大会」(以後インカレ)が長良川競技場で開催されました。ジャパラでは、地元出身石田駆選手(T46)の400m日本新記録での優勝、女子100m

湯口英理菜選手(T61)の世界新記録 男子走幅跳マルクス選手(ドイツ世界記録保持者)の8m38cmの大ジャンプなどパラリンピックを次年度に控え、熱い戦いが繰り広げられ大いに盛り上がりました。

インカレでは競技力、競技運営面で大学生の躍動感を十分に感じられる大会となりました。その中で、本県出身の赤松諒一選手(岐阜大)が男子走高跳で、若園茜選手(筑波大)が女子棒高跳で見事な優勝を果たしてくれました。さらに山下航生選手(男子円盤投:九州共立大)、西尾拓巳選手(十種競技:中京大)、中田寛乃選手(女子やり投:愛教大)が入賞を果たし大会に華を添えてくれました。また、最終種目1600mRの各校の応援は陸上競技の醍醐味を味あわせてくれるにふさわしいもので、その怒涛の応援と出身校の活躍ぶりに胸の高まりを覚えた競技役員の方も少なくないと思います。6月に予定されている、西日本学生対校陸上競技選手権大会が楽しみです。

岐阜陸協の春を告げる恒例ともなりました高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンは、第9回を迎え高橋尚子大会長のニック

ネームにちなみQ(キュー)回大会の愛称で呼ばれる記念大会となりました。ウェーブスタート(2グループの時間差スタート)の導入によりスタートから2km～3kmのランナーの停滞もなく適温適湿とよい条件に恵まれた大会となり、チェブングエティチ(ケニア)選手が1時間6分06秒と大幅に大会記録を更新しました。この記録は女子ハーフマラソン国内最高記録であり素晴らしい走りを披露してくれました。過去にぎふ清流ハーフマラソン優勝者からオリンピックのマラソンメダリストを輩出していることもあり2020東京オリンピックの楽しみがまた一つ増した大会となりました。



2019清流ハーフマラソンより

5月に開催された中部実業団陸上競技対抗選手権大会では全日本実業団陸上競技選手権の予選会を兼ねていることもあり男子10000mW山西利和選手(愛知製鋼)が大会新記録で優勝するなど男子中長距離、競歩を中心にレベルの高い競技が繰り広げられました。中部実業団のトップアスリートの皆さんには岐阜市ジュニアクラブが年間を通してお世話になっています。中部実業団所属選手のオリンピックでの活躍に期待したいと思います。

記録の更新では、800m市野泰地選手(ロブレ)、1500m河村選手(明治大)、円盤投山下航生選手(九州共立大)、棒高跳堀江勇輝選手(KYB)、10マイル殿地拓朗選手(国学院大)が5種目に岐阜県記録を更新。中学校では四種競技に河尻優来選手(金山中)が中学記録を更新する活躍をみせてくれました。

一方、全国大会における本県選手及び選手団の成績は例年に比べ残念な結果でした。岐阜の陸上競技を応援されるファンの皆さまも悔しい思いをされたと思います。しかし、勝利への難しさとともに最も悔しい思いを味わったのは指導者、選手たちです。厳しい状況下で、どの指導者も選手も最後まで諦めず全力で競技しました。悔しい思いと同時に学び得るものも多かったはずです。必ずやこの経験をバネに再び力強い活躍を見せてくれることを期待しています。

さて、一般財団法人岐阜陸上競技協会として今年で8年目を

迎えます。一般財団として法人化に踏み切った後、私たちは岐阜県陸上界の高揚を図るために、「三位一体」(①競技者、②観衆・ファン、③競技役員スタッフ:①～③を大切に育てる)を目標に事業を展開してきました。スポーツ活動での経験・体験は思い出だけとしてではなく人に自信や勇気、他人との共感や共通理解を生む力になることがあります。そこから生まれた陸上競技の魅力にひかれた人の輪の上に岐阜陸上競技協会の将来が成り立つと考えています。その為には、今活動している選手一人一人を大切に、そして逞しく育てることが重要です。専門性の高い指導者による年齢に応じた目標やトレーニング計画、指導者研修や指導者間の交流による指導技術の向上などを積極的に計る必要があります。併せて、高度化する競技・競技運営に対応する指導者・競技審判員の育成、地域社会に貢献するスポーツ競技団体として必要なガバナンスの確立なども今後の課題です。このように2020年も様々な課題に取り組まなければなりません。皆様のご協力をお願いします。

2020年度は、東京オリンピック、パラリンピックの年です。また、東海地区では全国高校総体陸上競技大会が静岡県で、全日本中学陸上競技選手権が三重県で開催されます。県内では7月～8月にかけてカナダのオリンピック、パラリンピック選手団が長良川競技場で、イギリスのオリンピック中長距離選手団が飛騨御嶽高地トレーニングセンターで事前調整トレーニングを行う計画です。競技場の利用で例年とは異なることもありますが世界のトップレベルの選手たちの姿や競技力を目にすることができる絶好の機会となるはずでした。しかし、新型コロナウイルスの猛威の前にオリンピックをはじめ多くの競技会が延期または中止となりました。第10回記念高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンも延期になるなど、残念な事態となりましたが一刻も早く新型コロナウイルスの脅威を乗り越え、世界のアスリートが再び東京を目指し、そして、文字通り平和の祭典東京オリンピックが日本で盛大に開催されることに期待したいと思います。



日本学生陸上 表彰式より

専門委員会報告

総務委員会

2019年度の事業において、3月8日の午前中に第4回理事会を行うことはできましたが、午後から実施予定の栄章表彰式は中止となりました。当日の出席をご予定いただいた多くの方々に、ご迷惑をお掛けすることになってしまったことをお詫びいたします。

2020年度競技会要覧を完成することができましたが、4月から6月末までの事業は中止となりました。選手・指導者・役員の健康を第一に考え、コロナウイルス感染症が終息した時には感染経路対策を十分に行った上、できる限り通常に近い競技会が運営できるように対処していきます。

【2019年度 受章者 一覧】

●公益財団法人 日本陸上競技連盟 表彰

栄 章	氏 名	所 属
秩 父 宮 章	尾 藤 義 昭	関体協
高校優秀指導者章	久 保 田 晃 弘	中京学院大附属中京高等学校職員
高校優秀選手章	加 藤 慎 之 介	岐南工業高校
中学優秀指導者章	森 光 弘	大垣市立星和中学校教員
中学優秀選手章	タムラ カエタノ	可児市立中部中学校

●東海陸上競技協会 表彰

栄 章	氏 名	所 属
功 勞 賞	牧 野 安 孝	大垣陸友クラブ
	江 崎 尚	中津川陸友
	酒 井 清 司	大垣陸友クラブ
	浦 野 昇 三	本巣陸上クラブ

●少年少女陸上競技指導者 表彰(安藤スポーツ・食文化振興財団)

栄 章	氏 名	所 属
安 藤 百 福 章	大 堀 幸 康	岐阜市立島中学校教員

●一般財団法人 岐阜陸上競技協会 表彰

栄 章	氏 名	所 属
功 勞 章 ジャパンパラ陸上競技大会 日本学生陸上競技選手権大会 開催記念	吉 村 景 子	各務原AC
	戸 川 健 司	岐阜アスリート
	渡 辺 景 介	岐阜陸上競技協会
	鎌 田 文 市	岐阜教員クラブ岐阜
	美 濃 島 広 幸	岐阜教員クラブ岐阜
	長 尾 靖	若鯨クラブ中濃
	勝 木 秀 和	大垣陸友クラブ
	加 藤 良 浩	大垣陸友クラブ
	中 嶋 菊 太 郎	岐阜教員クラブ西濃
	阿 曾 孝 明	大垣陸友クラブ
	高 橋 良 司	大垣陸友クラブ
	安 藤 剛	瑞浪陸友
	松 野 弘 明	土岐走友
	出 月 一 満	多治見走友
	金 子 久 志	岐阜教員クラブ東濃
	渡 邊 二 郎	瑞浪陸友
	奥 田 幸 男	高山陸上競技協会
	清 水 洋 一	高山陸上競技協会
	桑 原 宏 之	高山陸上競技協会
	神 出 圭 子	高山陸上競技協会

(委員長 内田 匡俊)

審判委員会

【2019年度を振り返って】

1 はじめに

2019年度も4月初めから各地区で競技会・記録会を開催しました。県内・県外問わず小学生からベテランまで多くの競技者の参加があり、岐阜県内の陸上競技人口の多さに喜びを感じています。また、朝早くから休める時間が少ない中、公平公正な目で競技会を支える審判員のみなさん、協力していただいた学校関係者のみなさん、補助員のみなさんのお力で、すべての競技会が大きなトラブルもなく無事開催することができました。ありがとうございます。

今年度S級に昇格された方は、原清隆さん、吉村優治さん、内田匡俊さん、河島正弘さん、筒井学さん、松浦正泰さん、渡邊卓哉さん、若園毅さん、勝川誠さん、板橋省吾さんです。おめでとうございます。これからもよろしくお願いします。

2 ジャパンパラ・日本学生対校陸上競技大会(インカレ)開催!

ジャパンパラを2019年7月20日、21日(土日)、インカレを9月12日(木)～15日(日)に長良川競技場で無事開催することができました。全国規模の大会を開催するために、主任さんを中心に何度も打ち合わせを行ったり、各部署だけでなく部署間の連携を図ったりしてきました。特にインカレでは、夜遅くまでの競技に対しても緊張感を維持しながら的確に審判活動することができました。主催した日本学生連合や日本陸連の方からは感謝の言葉を多くいただきました。そして大変満足をして帰って行かれました。岐阜陸上競技協会の審判力の高さを見せることができたと思っています。ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

3 2020年度に向けての主なルール改正(明確化)

①科学計測員の任務:計測装置の動作確認について

(現行)競技開始前と終了時→(変更)競技開始前のみ

②スタートの再定義…第162条-7

信号器の発射音を聞くまでスタートを開始してはならない。競技者が少しでも早く動作を開始したと判断したときは、不正スタートとなる。スタートの開始とは以下のように定義される。

(a) 結果的にスターティング・ブロックのフットプレートから片足または両足が離れようとしている、あるいは地面から片手または両手が離れようとしているあらゆる動作

(b) スタンディング・スタートの場合、片足または両足が地面から離れようとする結果になるあらゆる動作

⇒スターターが信号器の発射音の前に、ある競技者が動き始めて止まらずにスタートの開始に結び付く動きを開始したと判断した場合も不正スタートと判断しなくてはならない

〈注意〉競技者による上記の(a) (b) 以外のあらゆる動きはスタート動作の開始とはみなさない。

但し、そのような動作は、不正スタート以外での警告または失格処分の対象になる場合がある。

③ハードル競技の失格の定義(明確化)…第168条-6【失格となる項目】

(b)手や体、振り上げ脚の上側で、いずれかのハードルを倒すか移動させたとき

(c)直接間接を問わず、レース中に他の競技者に、(以下略)

④バトンの受け渡し時のバトンを落とした場合の取扱い

バトンパスが開始されバトンパスが完了していない状態でバトンを落とした場合には、バトンは渡し手(前走者)が拾わなくてはならない。バトンパスが完了し、受け手(後走者)が唯一の保持者となった後にバトンを落としたら、受け手が拾わなくてはならない。



ジャパンパラ 役員会より
(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

2019年度も例年のように数多くの競技会を行い、今まで以上に多くの人々に陸上競技に親しんでいただくよう、努力してきました。これからもよりいっそう努力して、陸上競技の裾野を広げ、競技人口が増えるようにしていきたいと思っています。

なお2019年度は松田哲明さん等により一部変更を含め8カ所の競技場検定も行いました。(以下松田哲明さんによる)

1. 高山市中山公園陸上競技場(3種継続)
4月19日～20日検定(公認番号9674)
2. 土岐市総合活動センター陸上競技場(第4種継続)
5月14日検定(公認番号9679)
3. いびがわマラソン(フル一部変更)10月12日～13日検定
4. 岐阜協立大学陸上競技場(第4種継続)
10月21日検定(公認番号9732)
5. 大垣市浅中公園総合陸上競技場(第3種継続)
2月8日検定(公認番号9772)
6. 岐阜メモリアルセンター長良川競技場300H標識設置
(第1種一部変更)3月16日検定
7. 同競技場補助300H標識設置(第3種一部変更)
3月16日検定
8. 関市中池公園陸上競技場300H標識設置及び
リレーゾーンの変更(第3種一部変更)3月23日検定

いびがわマラソンについては既存のコースの一部が崖崩れの恐れがあり通行止めとなっており、急遽コースの変更を行う事になりました。11月10日の大会まで期間も少なく過密なスケジュールと台風の到来も重なり強風の中、倒木や土砂等の撤去を伴う作業もあり、大変な検定となりました。愛知県より桑原計測員及び平川計測員の的確な指導のもと無事検定を終えることができ陸連からも公認合格をいただきました。

いびがわマラソンは市民ランナーにとって全国的にも知名度の高い大会であり、大会事務局としても公認コースでの大会運営を望んでおり、それに答えることができ大変嬉しく思いました。

2020年度から第4種競技場の取り扱いの改定により、4種L(ライト)を設けることになり、公認継続の要件が緩和されました。

主な変更は走跳投の基本となるトラック、走高跳、走幅跳、砲丸投施設を必須要件とし、その他施設は選択可能となりました。

これにより、条件付きの合格となった施設の継続、廃止した施設の復活、新規の施設が増え、ジュニアの陸上競技が発展することを願います。



清流駅伝スタートより
(委員長 河野 康彦)

強化委員会

2019年度を振り返ってみると大変苦しい1年であったと思います。岐阜県として世界や全国で活躍する選手を排出するために強化委員会として多くのスタッフが日々試行錯誤し成果に繋げようと取り組んでくれました。しかし、結果としては全国大会での入賞がこれまでに比べ少ない年となり、インターハイでは入賞なし、全中においては2種目。国体においては成年男子走高跳びで赤松選手が7位入賞、成年女子400mHで吉田選手が8位入賞の2種目でした。さらには種目別の天皇杯で最下位、皇后杯で43位という大変悔しい結果となりました。都道府県対校駅伝においては男子32位、女子26位という結果でした。私自身の強化委員長としての力不足を大いに感じさせられるスタートとなりました。

この1年の反省点としてはチーム岐阜として十分に意識を高められなかったことが大きな原因であると考えます。強化に関わるスタッフ、大会に参加する選手が本当のチームとして戦えていなかったのではないかと思います。スタッフ同士の繋がり、スタッフと選手の繋がり、スタッフと各所属の指導者との繋がり、選手同士の繋がり、これらの全てがしっかりと噛み合うことでチームとしての力が十分に発揮されると思います。

そして、結果を出すためには選手1人1人の競技力向上がとても重要になってきます。全国的に競技レベルは年々上がってきています。その流れに乗り遅れることなく競技力を高めるためにも、やはり指導者の資質向上が大変重要であると感じました。指導の内容や選手への伝え方など積み上げるものはまだまだあると思います。指導者の向上が選手の向上に繋がるという気持ちのもと、多くのものを吸収していけるスタッフでありたいと思います。

これらの課題を解決していくためにも県内での合宿や練習会で連携を取り合っていくこと共に、県外の合宿などを取り入れ、選手や指導者の視野を広げていきたいと考えています。

2020年度は新型コロナウイルスの影響によりなかなか先の見えない状況となっておりますが、こんな時だからこそ岐阜県として強くあり、様々な困難に柔軟に対応していきたいと思っています。今後も多くの方々に応援していただける岐阜県チームとして活動していきますので、ご指導ご声援よろしくお願い致します。

(委員長 太田 和憲)

普及委員会

「みなさん、陸上競技は好きですか。」

普及委員会の活動にも、新型コロナウイルスの影響は出ています。今年度も例年のように各地区で10回程度の練習会を考えていました。ところが、新型コロナウイルスの影響で、各地区での練習会は中止され、今のところ再開の見通しすら立っていません。また、3密を避けようすると、ひとつの会場に多くのみなさんが集まって練習をすることや大きな声を出して元気よく練習をすることが難しい状況です。このような状況ですので、みなさんは家の中や庭などを使って工夫して練習に取り組んでいることと思います。そんな中、高校のインターハイが中止、中学校の全国大会や小学校の全国大会も中止が決定しました。さらに東海大会も中止の連絡が入ってきました。全国大会や東海大会出場での入賞や出場を目指していたみなさんにとっては、悔しさで胸が一杯のことでしょう。

そんな時だからこそ、「みなさん、陸上競技は好きですか。」と問いたいのです。小学生低学年の50m競走を見ていると、選手のみなさんは実に楽しそうに走ります。勝っても負けても、ゴール後にすてきな笑顔をしています。その姿からは、走る

ことが好き、陸上競技は楽しいという思いが見て取れます。皆さんも、陸上競技を始めたころは走ることが楽しくて仕方がなかったのではないのでしょうか。もう一度、その時のことを思い出してほしいのです。

昨年度行われた第35回全国小学生陸上競技交流大会では、友好女子100mで7位、第46回全日本中学校陸上競技選手権大会では、男子400mで7位、同じく女子1500mで8位でした。全国大会で上位入賞はありませんでしたが、県大会をみると大会記録がいくつも更新されました。第4回岐阜県小学生陸上競技選手権大会では、男子では8種目、女子では9種目、男女混合リレーでも大会記録ができました。中体連の県大会では、男子で3種目、女子で1種目大会記録ができました。県のレベルは少しずつ上がってきています。

普及委員会では、6つの地区ごとに練習会を計画し、実施しています。参加者は、小学生のみ、中学生のみ、小中合同の場合があります。地区の実情や時期によって参加者が変わりますが、少しでも陸上競技に親しみ、力を伸ばしていくきっかけになればと考えて、練習会を行っています。今年度は、このような状況ですので、回数が減ったり、規模が小さくなったりするかもしれませんが、練習会を実施しようと考えています。陸上競技が好きなみなさんと一緒に練習会が実施できることを共に喜びたいと思っています。練習会が実施できる状況になったら、各地区の普及委員が日程を決めるので、今しばらくお待ちください。また、県大会の実施も考えています。もう一度、陸上競技を始めた頃の気持ちを思いだし、自分の目標を再度設定して練習に取り組んでください。大会で皆さんの元気な姿が見られることを楽しみにしています。



2019小学生陸上100女子決勝より

(委員長 岸 栄二)

記録・情報処理委員会

【2019年度を振り返って】

今年度は今までの委員長、副委員長の体制から新たに記録部長、情報処理部長を任命し、4名で記録・情報処理委員会を運用してきました。おかげで課題に向き合える時間が増えました。情報機器を扱うこともあり、様々な変化に対応することの多い委員会ですが、どんな変化に対しても新しいアイデアを出し合い、柔軟に対応していきたいと思っています。今後も記録・情報処理員として活動している審判員が楽しく審判活動を続けられるようにがんばっていきましょう。

昨年度のアジアジュニアに引き続き、今年度は、ジャパンパラ、日本インカレと2つの大きな大会を経験しました。国際大会や全国大会をいくつか経験していることで、トラブルがあっても判断に迷うことなく対応もスムーズでした。事前の準備で何をしておけばいいのか、もう1度振り返ってリストアップし、次に備えていきましょう。

2020年2月の全国競技運営責任者会議で2019年12月31日時点の公認記録申請100%達成陸協として岐阜陸協の名前があげられました。昨年に引き続き、ご協力ありがとうございました。来年度以降もずっと続けていけるようご協力をお願いします。

また、現在のU20男子1000mの日本記録を上回る過去の記録が発見され、話題になりました。今から60年以上も前の1959年8月23日に渡辺国明さん(美濃加茂陸上クラブ)が中央大1年(19歳)の時にドイツのフングスタット国際競技会で2分22秒8の日本記録(当時)を樹立していました。この記録の確認のため、渡辺さんのご自宅でお話を伺いました。その後、陸上競技マガジンの取材があり、記事ができましたので下記のアドレスからご確認ください。

[陸上] 日本記録上回る記録 新発見 (2020年3月13日)
<https://www.bbm-japan.com/trackandfield/17348897>

コロナウイルスの感染拡大により、様々な競技会が中止や延期になり、陸上競技に触れる機会も減りました。最近ではアスリートが動画でトレーニング方法を紹介したり、オンラインでファンと触れ合う機会を設けたりと新しい試みが始まっています。今までの当たり前が当たり前でなくなっても、陸上競技への情熱を忘れず、できることから少しずつ始めていけたら良いですね。皆さんに1日も早く競技場でお会いできることを楽しみにしています。

2020年度も引き続きよろしくお願いします。

(委員長 山下 和行)

女性委員会

女性委員会の主な活動は託児室の開設です。小さいお子さんがいて、審判依頼があってもなかなか出席できないのではないかと2013年度より始まりました。2019年度は5競技会8回開室しました。前年度より引き続き来室している

お子さんたち、新規で参加されたお子さんともに仲良く遊ぶ姿が見られました。託児室は子どもたちにとって憩いの場となっています。2019年度はのべ人数にして15名のお子さんを預かりました。前年度9人から増加しました。兄弟での参加もありました。

有資格者の保育士さん、学生ボランティアの皆さんがとても上手に子どもたちと対応していただけたので、子どもたちも安心して楽しく過ごすことができました。保護者の方も審判の空き時間に子どもさんの様子をみに来られ、そして安心して再度審判に行かれました。

また、女性審判員の子どものみだけでなく、男性審判員からの依頼もあり皆さんのお役に立てたのではないかと考えています。今後は審判員の子どものみだけでなく、岐阜県登録で競技会参加選手からの依頼にも対応していきたいと考えています。

小さいお子さんがいるので競技会から離れているという方も多くみえると思います。中には試合に興味を持っているお子さんもいると思いますので、親子共々陸上競技を楽しむつもりで参加していただけるといいのではないかと考えています。

今、女性審判員が少ないのが現状です。陸上競技に興味がある女性が多く参加できるような方法がないかと考えています。更に女性競技者に対しての援助も考えていますが、具体化していないのが現状です。皆さんのご意見を取り入れていきたいと考えています。

2020年度も引き続き託児室を開室していきます。どんな活動をしているか。お子さんたちと触れ合いたい方もご来室ください。

(委員長 浅野美津子)

医事委員会

【2020年 医事委員会の活動】

2020年1月に、4月開催の「ぎふ清流ハーフマラソン」の準備として、救護備品(消耗品)のチェックを行いました。3月に大会中止決定となりましたが、2020年度のシーズンインに向けて、例年どおり岐阜陸協主催大会について、看護師派遣を岐阜県スポーツドクター協議会に申請しました。そして、新型コロナウイルス感染症の拡大が進むなか、競技会が安全に開催されるために医事委員会として、以下の取り組みを行いました。

大会当日は、召集所や本部席などに消毒液を配置する計画から、まず、消毒液とそれを入れる容器の確保が必要となりました。消毒液は不足しており、簡単には入手ができない状況でしたので、頭を悩ませました。結果的には、医事委員会顧問の渡辺郁雄先生(渡辺内科クリニック院長)から専門の業者を紹介いただき、なんとか確保することができました。消毒液は原液のため純水で希釈する必要もありましたが、某高校に依頼し快諾をいただきました。この経験から危機管理体制の必

要性を痛感しましたが、大会が開催できる体制は整えました。

7月以降の大会開催を願う日々ですが、主要活動である「トレーナールーム開設」及び「スタジアム救護活動」は、7月の岐阜県陸上競技選手権大会を予定しています。さらに、鹿児島国体では、強化委員会と連携し合宿時のトレーナー派遣、本大会でのトレーナー帯同など選手が万全の体制で競技できるよう支援していく予定です。

トレーナーについては、計画的に日本陸連公認トレーナーを養成するなどし、スタッフも充実してきました。課題である医師・救命救急士など医療専門職の委員会への参画は、早い時期に実現できるように関係機関とも連携を図っていきたいと考えています。

最後に、今年度も「医事委員会」の活動をご理解いただくとともに、あらゆるご支援とご協力をよろしくお願いします。



ジャパンパラトレーナールームより
(委員長 河島 正弘)

広報委員会

【はじめに】

2015年に広報委員会を発足し、岐阜県陸上競技協会広報誌1号を創刊して以来10号の発刊となりました。これも偏に岐阜県陸上競技協会役員・会員の皆様、各関係団体の皆様のご理解とご協力のお蔭と感謝致しております。今後も岐阜県陸上競技協会の取り組みを皆様に発信していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

【2019年度 広報委員会 事業報告】

1 組織図の変更

役員改選に伴い地区担当者の変更がありましたので報告いたします。

事務局		地区陸協編集委員	
委員長	木下 克己	岐阜	河野 康彦
副委員長	原 清隆	東濃	江崎 尚
		西濃	安福 弘典(新)
編集委員	山田 緑 河野 康彦(※兼務)	中濃	小川 秀一(新)
		飛騨	坂谷 幸紀

2 事業の実施

以下の事業を実施しました。

(1) 広報誌8号発刊

2018年度年度末より継続準備し、5月1日付け発刊。

・アジアジュニア大会特集と2018年総括合併号。

・岐阜陸協ホームページ掲載

・県内外関係団体等への発送

・会員へ東海学生大会等で配布

※表紙を変更し、アジアジュニア大会役員集合写真と目次を採用しました。

(2) 広報誌9号発刊

高校総体男女優勝チーム特集とし、8月1日付け発刊。

・2019年度岐阜陸協事業計画と展望号

・岐阜陸協ホームページ掲載

・県内外関係団体等への発送

・会員へ強化記録会にて配布

※表紙に県選手権4×100mリレー決勝の写真と目次を採用しました。

(3) 広報10号発刊準備(2020年度号)

2019年度年度末より継続準備し、7月1日付け発刊予定。

・ジャパンパラ陸上・全日本学生陸上特集

(トピックス扱い)と2020年度号との合併号の予定。

3 活動報告(2020年2月26日現在)

以下の委員会と各競技会にて写真等の取材を行いました。

■ 2019年

広報委員会 1月15日・4月5日・4月13日・4月19日・
5月16日・7月2日・7月13日・7月14日・
8月8日・8月10日・12月23日

■ 2020年

広報委員会 1月5日・2月中旬・3月下旬・4月初旬
以下10号発刊へ向け活動予定。

4 広報委員会事業計画見直し実施

2019年9号より実施しました。

(1) 広報誌発刊号数の変更

経費削減と作成負担を軽減、原稿執筆者等の負担軽減を図るため、年間発刊号数を1号とし、前年度総括・本年度活動計画・展望等を中心にまとめ発刊としました。但し、2019年度は該当年度活動計画・展望のみとし、発刊期日は県選手権開催期日を目標としました。

(2) 広報誌発刊部数の削減実施

岐阜陸協ホームページ広報誌掲載形式の変更に伴いパソコン・携帯による閲覧が可能になりました。このことを受けて一般会員への配布数400部に削減しました。(県内外送付・陸協関係300部+一般会員80部+保存20部)

(3) 見やすく関心を持っていただける紙面作り

表紙を年度実施の大会写真と目次の掲載とし、あわせて注目される大会・選手・チームの特集記事の掲載をしました。又、各委員会・大会等の関係写真を積極的に掲載しました。

(委員長 木下 克己)

岐阜県中体連陸上競技専門委員会

【全国大会にて上位で活躍できる選手の育成を目指して】

1 2019年度の取り組みの成果

重 点 目 標	岐阜システムの確立～岐阜で育てた選手を世界へ～
大阪全中の目標	日本一2 入賞10 出場数30
基 本 理 念	自立型人間づくり
大阪全中結果	出場34種目 優勝0 入賞2(400m・1500m)
滋賀全中駅伝	男子27位 女子25位
考 察	毎月1回の強化合宿を实行させ、秋の競技レベルから考えても、34種目、過去2番目の出場を果たせたことは成果である。しかし、出場レベルだけをイメージした練習が中心となってしまったのが原因と考える。

2 中体連の取り組みについて

中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「ジュニアオリンピック」の2つの全国大会で活躍することを大きな目標と考えて取り組んでいます。強化選手を毎年選考して、定期的に強化練習会や合宿を通じて、「技」「体」「心」そして、「生活」「仲間」を大切に、チーム岐阜(選手・指導者)としての意識をもって日々活動しています。

(1) 強化選手の育成・強化

最低でも「全国参加標準記録を突破できる者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の規準として、「岐阜県強化選手」として選考しています。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることが出来ます。そして、「強化練習会」「強化合宿」での練習を通じて、県強化の指導者による各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っています。また、「原田メソッド」を導入し、それをもとに岐阜独自のシステムを確立させ、新たな取組をスタートさせました。「目的・目標設定用紙」「ルーティーンチェック表」「日誌」「オープンウィンドウ64」をもとに、目標の明確化、メンタルトレーニングの導入、組織を再建させる(チーム練習が効果的な方法)原則、個人のやる気を育てるなど、原点に立ち返り、指導に当たることを重点として取り組んでいます。また、個人ファイルを作成し、毎月の様子をブロック長が記入し、「心」「体」「技」の部分が足りないかが分かるようにして、指導方針を明確にしてきました。

冬季には、全中会場となる「三重県」で1月11日、12日の1泊2日で東海選抜合宿を行いました。自分自身の最高のパフォーマンスを最大限発揮するために、本番会場を下見することは、今後の練習へのモチベーションにもつながりました。そして、他県のレベルの高い選手と共に練習をすることで、良い刺激を受け自分の動きを確認するなど、さまざまな効果があったと思います。

(2) 指導者の育成。

課題でもある陸上競技を専門とする顧問がいない中学校の部活動も数多くあります。そういった顧問の先生にも強化練習会に積極的に参加してもらいました。普段の部活動に生かしてもらおうと考えています。

(3) 今後の指導重点

今年度は、人材育成を図りながら、全国大会において

上位で活躍できる選手の育成をしていきたいと思っています。本年度、三重県で行われる全中陸上競技大会では、100m 200m といった短距離を中心に上位入賞をめざし、昨年の入賞数男子1、女子1、合計2の成績を上回りたいと考えています。



通信陸上 表彰より



通信陸上 女子100mより

(委員長 村井 伴成)

岐阜県高体連陸上競技専門委員会

【2019年度 高体連総括】

2020年は分散開催のため、静岡で開催が予定されていた全国高校総体が中止となり、同時に県予選、東海予選も行われなくなりました。選手にとっては大変残念な事態となり、この夏にかけていた選手たちのやりきれない気持ちは計り知れません。何とか3年生の生徒諸君には選手生活の区切りとなるような場を用意できないか現在模索しているところです。

さて、昨年の全国高校総体は、沖縄県沖縄市にあるタピック県総ひやごんスタジアムで開催されました。県勢は6月に静岡県で開催された東海ブロック大会を勝ち抜き、男子9種目24人・女子5種目6人が出場しましたが、入賞者0という残念な結果となりました。

全国高等学校陸上競技選抜大会は、大阪市のヤンマーフィールド長居で開催され、男子3000mWで山下雄暉選手(美濃加茂3年生)が3位、女子3000mWで永岡紗梨選手(美濃加茂3年生)7位入賞を果たしました。

U18日本陸上競技選手権大会は、広島県広島市のエディオンスタジアム広島で開催されました。男子200mの加藤慎之介選手(岐南工2年生)が3位、男子300mでは、岩垣勇司選

手(岐阜聖徳2年生)が6位、男子走り幅跳びでは三輪哉太選手(県岐阜商2年生)が8位と3名の選手が入賞を果たしました。

また、県高校駅伝競走大会において男子では中京院中京が12年連続39回目の優勝、女子では県岐阜商が初優勝を果たし全国高校駅伝に出場しました。東海高校駅伝(静岡県袋井市)においては男子で美濃加茂が4位、女子では益田清風が6位入賞となりました。

最後になりましたが、昨年度の大会開催に際しまして、一般財団法人岐阜陸上競技協会の皆様はもとより、岐阜県教育委員会・岐阜県警察・岐阜南警察署・岐阜羽島警察署・毎日新聞社等、多くの関係者の方々に多大なる協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

また、補助員を快く引き受けてくれた高校生諸君、また、顧問の先生方の役員派遣にご配慮いただきました各校の校長先生に心より感謝いたします。今後とも陸上競技専門部の活動にご理解をいただきますとともに、ご支援を賜りますようお願いいたします。



2019県高校総体 閉会式より



県高校駅伝 男子より

(委員長 沖村 敏寛)

地区陸上競技協会報告

岐阜地区陸上競技協会

【第3回 岐阜地区陸上競技選手権大会開催】

第3回岐阜地区陸上競技選手権大会を2019年9月7日(土) 岐阜メモリアルセンター長良川競技場にて、小学生302名・中学生475名・一般高校354名・合計1,132名の参加で、参加者が増加し大会新記録が47も出て、盛大に開催することができました。同時に小学生を対象に記録会も行い無事終了することができました。各優勝者と記録会1位は次の皆さんです。

●一般高校

種 目	男 子	女 子
1 0 0 m	所 京佑 (岐阜アスリート) 10.81 N	脇田 あやな (済美高) 12.49 N
2 0 0 m	所 京佑 (岐阜アスリート) 21.81	森 樺音 (済美高) 25.72
4 0 0 m	石田 匠 (岐阜工高) 51.93 N	森 樺音 (済美高) 1:07.4 N
8 0 0 m	藤井 穂高 (県岐阜商高) 1:57.70N	加藤 愛結 (県岐阜商高) 2:19.51
1 5 0 0 m	松浦 啓 (大垣南高) 4:13.55	加藤 愛結 (県岐阜商高) 4:48.75
4×100m	岐阜大 43.05	済美高 49.16 N
走 幅 跳	小谷 謙斗 (岐阜聖徳大) 6m84	鹿野 日陽南(長良高) 5m52 N
や り 投	梅田 孝哉 (至学館大) 49m28	矢野 瑠璃 (県岐阜商高) 31m57

●中学

1 0 0 m	澤村 太星 (岐大付属中) 11.46	大幸 穂乃花 (梅林中) 13.68
2 0 0 m	須山 元暉 (真正中) 23.65	薫田 ひかり (鵜沼中) 27.61
4 0 0 m	古田 泰暉 (真正中) 51.47 N	
8 0 0 m	戸川 颯太 (岩野田中) 2:08.28	峠 和花奈 (岐阜中央中) 2:28.12N
1 5 0 0 m	加藤 優弥 (羽島中) 4:19.76 N	大橋 佳奈 (岐阜中央中) 5:11.19
4×100m	真正中A 45.95	各務原JAC 52.86 N
走 幅 跳	後藤 翔 (各務原JAC) 5m81	加藤 亜沙日(島中) 4m88 N
砲 丸 投	泉 雅也 (岐大付属中) 11m51 N	兼松 優羽 (島中) 10m05

●小学

1 0 0 m	小林 耀介 (島陸上) 13.65 N	下谷 雫 (島陸上) 14.16 N
8 0 0 m	岩間 涼斗 (各務原陸上) 2:36.15N	田中 萌寧 (各務原陸上) 2:44.46
混合4×100m	島陸上A 54.79	
走 幅 跳	荒深 駿斗 (たかとみ) 4m54	各務 かなな (たかとみ) 4m02
ジャベリ/カボチャ投げ	片岡 恭俊 (精華スポーツ) 46m25 N	茲出 蒼衣 (各務原陸上) 41m08 N

●記録会

5 0 0 m	松本 慧 (本庄陸上) 9.18	棚瀬 志帆 (各務原陸上) 9.52
1 0 0 m	城所 悠太 (各務原陸上) 15.41	藤崎 響子 (各務原陸上) 15.61

N NGR

参加者が昨年より小学生・中学・一般高校とも増加しました。また、次回に向け実施種目を小学生・中学・一般高校とも多くし、将来的に全種目が実施でき、競技力の向上・地域の活性化につながるよう一步一步前進したい。

岐阜地区から多くの各栄章受章者ができました。

公益財団法人日本陸上競技連盟高校優秀選手章に加藤慎之介さんが、東海陸上競技協会功労章を酒井清司さん・浦野昇三さんが、少年少女陸上競技指導者安藤百福章に大堀幸康さんが、一般財団法人岐阜陸上競技協会功労章を、吉村景子さん・戸川健司さん・渡辺景介さん・鎌田文市さん・美濃島広幸さんが、勲功章を若園 茜さん・井戸田 魁さん、加藤賞を、赤松諒一さん、加藤章を赤松諒一さん、田口章を精華中学校(堀弥優さん・片岡英

俊さん・伊藤真治さん・小栗由靖さん)が、記念章に加藤慎之介さんが、新記録章に山下航生さんが、澤田章に白木晴也さんが、土屋章に赤松諒一さん・岩垣勇司さん・森有加さん・伊藤真治さん・秋月涼子さん・下谷雫さんがそれぞれ受章されました。

岐阜地区から多くの栄章受賞者が出、競技力が上がりました。これも、中学校・高等学校の指導者・関係者の努力の成果だと思います。今後もこの現状が続くこと、もっと向上することを期待します。

●2020年度 事業計画案

日 時	事 業 名	場 所	備 考
5月2,3日(土,日)	岐阜県高等学校総合体育大会岐阜地区予選会	長良川競技場	運営協力
6月13日(土)	岐阜地区中学校総合体育大会	長良川競技場	運営協力
9月5日(土)	岐阜地区陸上競技選手権大会	長良川競技場	主催
10月10日(土)	岐阜地区中学校駅伝競走大会	山県市四国山香りの森公園	運営協力
12月6日(日)	岐阜地区高等学校駅伝競走大会	長良川河川道路	運営協力
3月6日(土)	理事会	未定	

世界で活躍する選手が増え、マラソン・競歩でオリンピック内定者がでて、男子4×100mRも活気づいています。岐阜地区を見てみると、全国大会で活躍してくれる選手が多数いると思います。このような選手の今後の活躍に期待したいです。こうした選手が多く出るように、小学生の埋もれている逸材の発掘、中学高校の強化、各都市の活性化をあげ関係団体と協調しながら取り組み、選手だけでなく指導者・審判員の活躍・向上を目指したいと思います。

(理事長 正村 菊雄)

東濃地区陸上競技協会

【2019・2020年度の取り組み】

2019年度は例年通りの各大会運営や会議・講習会・研修会等が地区陸協会員の協力により無事終了しました。とはいえ、年度途中から理事長の病氣療養にて会長、副会長をはじめ各市理事長、各委員長には迷惑をかけましたが、各担当の協力により無事に終えることができました。

昨年度末は新型コロナウイルスにより、大会の中止や会議の中止が続く、東濃地区の理事会・総会も中止せざるを得なくなりました。地区陸協の役員の任期は2020年度まででしたが、前述の理事長の病氣療養もあり、できるだけ若い人を登用したいという願いもあり役員の改選を行いました。

(任期は2020年度)



東濃ロードレース大会より

新体制

会 長	高木貴行			
副 会 長	松原晃正	加藤 正		
顧 問	小池良司	山内 浩	丸山充信	中島安博
参 与	羽柴文夫	神戸庫次	柴田活司	伴野 茂
	江崎 尚	関田元久	加藤輔之	安藤功二
理 事 長	西垣幸司			
副 理 事 長	金子 肇	上倉慶三		
庶 務・会 計	長谷川悟			
駅 伝 庶 務	松井辰徳			
監 事	北原三義	安藤 剛		
各市理事長	多治見市:西垣幸司	土岐市:澤田和彦		
	瑞浪市:小木曾謹也	恵那市:瀧藤功	中津川市:金子肇	
中 体 連	小木曾謹也			
高 体 連	中田 和寿			

【課題・重点】

- 1.各委員会の委員長については若い人の登用もできましたが、さらに若返りを図るのが今後の課題です。
- 2.東濃地区で実施される各種大会の確実な運営
- 3.中山道東濃駅伝の継続…警察署・公安委員会・中日新聞社との連携

収束の見えない新型コロナウイルスですが、またグラウンドに子どもたちの元気な姿が見え、元気な声が聞こえる日を楽しみにしています。



東濃ロードレース大会より

(理事長 安藤 功二)

西濃地区陸上競技協会

【西濃地区二大マラソンについて】

- 1.いびがわマラソン(11/10 揖斐川町)

2019年11月10日(日)、揖斐川沿いの山紫水明のコースを走る「いびがわマラソン2019」が開催され、フルマラソンとハーフマラソンを合わせて国内外から10218名がエントリー、いびがわマラソンならではの高低差あるコースに挑みました。子どもたちの太鼓演奏などが選手を鼓舞し、給水所では中学生やスポンサー企業など大勢のボランティアが活躍しました。

●優勝者

フル 男 子	河野 孝志	(青森・チームぜっと)	2.24.16
フル 女 子	馬淵 裕子	(岐阜・関体協)	2.51.06
ハーフ男子	辻 友寛	(三重・NFA)	1.10.08
ハーフ女子	Sylvia Bedford	(アメリカ)	1.20.15



いびがわマラソンのスタート

2.大垣マラソン(12/15 大垣駅前)

2019年12月15日(日)、初冬の西美濃路を駆ける「おおがきマラソン2019」が、快晴の中大垣駅前を発着点に開催されました。全国各地から集まった約7000人のランナーが大垣城などを巡るコースを走り抜けました。

●優勝者

ハーフ男子39歳以下	菱田 直弥 (岐阜・JA岐阜信連)	1.08.27
ハーフ男子40～49歳	桜井 史 (静岡・AGデザイン)	1.10.47
ハーフ男子50歳以上	野々垣秀治 (愛知・豊田合成)	1.18.12
ハーフ女子39歳以下	加藤 晶 (愛知・至学館大学)	1.28.41
ハーフ女子40歳以上	田邊 ひとみ (愛知・庄内RT)	1.24.17
10KM男子	中山 純静 (新潟・新発田高校)	33.05
10KM女子	中村 有貴 (愛知・安城快速AC)	40.11



大垣マラソンのスタート

3.その他

・西濃選手権(6/15・16 浅中公園陸上競技場) 前号にて掲載済み

・西濃陸協創立65周年記念祝賀会(7/27 クインテッサホテル)

大垣市長、揖斐川町長様を始め、岐阜陸協、各地区陸協から100名近い皆様に参加していただき盛大に開催されました。会の中で功労者表彰があり、次の皆さんが表彰されました。

花尻 昇 川地文作 (故)石原好之

高木敏幸 工藤勝男 加藤孝司

(敬称略)



(理事 安福 弘典)

中濃地区陸上競技協会

【中濃陸協 2019年度事業を振り返って】

今年度の総括

中濃地区で行った競技会は5月の高体連地区大会、および6月の中体連の美濃・可茂地区の予選会を皮切りに中濃大会、ナイター記録会、中濃地区ジュニア記録会を行うことができました。

また、第1回長距離記録会を県体協の支援を得て行うことができました。

選手強化・育成事業として地区体育協会の助成事業として記録会を行うと共に、月2回の小中高生の合同練習会を開催し、県レベルの大会で上位の成績を上げる選手が育ち、選手の競技力向上に繋げることができました。

今年度、地区で自由に使用できるように、PCを1台購入しました。また、競技場の機材(テント・照明器具)の補充および備品の修繕、リレーゾーンの引き直し、300mHのポイント打ちも行うことができました。

今年度の事業で残念なことは、コロナ禍により公認大会の関シティマラソン大会を中止せざるを得ないことになったことです。また、2020年度前半の大会が中止なることが予想されることです。

今年度行った競技会

審判員が少ない中濃地区において下記の競技会を開催できたのは、地区内の高校生と各高校のOG、OBの方々のご協力のおかげで開催できました、心から感謝申し上げます。

開催月日	競技会名	参加人数
5月3・4日	県I・H中濃地区予選会・兼美濃地区中学生記録会	301名
6月 8日	美濃地区中学陸上競技大会	450名
6月15日	可茂地区中学陸上競技大会	740名
6月23日	総会・中濃地区審判講習会	23名
6月23日	第50回中濃陸上競技大会兼地区記録会	386名
7月13日	中濃地区高校総体	302名
8月24日	中濃陸協ナイター記録会	156名
9月29日	第1回中濃地区長距離記録会	157名
10月13日	第7回中濃地区ジュニア記録会	338名
2月 2日	第34回中濃駅伝競走大会	35チーム
3月15日	関シティマラソン(コロナ禍で中止)	申込 2772名

今後の課題

少子化に伴い競技者の減少が顕著になっている事と同時に指導者も不足していることです。また、競技大会会場および練習会場が行政のイベントやサッカー等と競合して十分な会場確保ができない状況です。

次年度以降は競技場管理者と使用について十分な話し合いを行い会場確保に努めて行くと共に、総合型地域スポーツクラブの指導者も巻き込んだ選手の育成強化のためのより良い環境づくりに心掛けて行きたいと思います。

(理事長 上野 悟一郎)

飛騨地区陸上競技協会

【飛騨地区の“頂点”を目指して】

飛騨地区陸上競技協会では、毎年、記録部長(川上登:高山工業高等学校勤務)が中心となって、その年度の各種競技会の記録をすべて集約し、「スポーツ少年団」「中学校」「高等学校」「一般」の男女・種目別に、「歴代十傑表」及び「その年度の十傑表」を作成し、それを基にして「飛騨記録一覧表」をまとめ、『○○○○年度:飛騨地区陸上競技記録集』を発行し、飛騨地区陸上競技協会の全会員や関係各機関に配布しています。これはまさに“飛騨地区陸上競技協会の歩みの歴史”そのものとなっており、飛騨地区陸上競技協会の大切な宝物となっています。

今年度の記録集を見てみると、

- ・新たに4種目(男子:3種目、女子:1種目)が「飛騨記録」として認定されました。
- ・また、飛騨記録に限りなく近づいている種目も何種目かあります。

その一方で、「1981年:女子走り高跳び」や「1986年:男子走り高跳び」の記録が今なお「飛騨記録」として輝いていることに、先輩諸氏の力の偉大さを感じています。

飛騨地区の競技者の皆さんは日々努力を積み重ね、自分自身の記録の向上を目指しながら「いつの日か、この飛騨記録を塗り替えてやろう」と意欲的に挑戦しておられます。新年度も少しでも多くの飛騨記録が生まれることに期待しながら、各種競技会の運営に当たっていきたくと考えています。

●女子の部

2019年度までの飛騨記録				2019年度のベスト記録		
種 目	記 録	氏 名	年 度	記 録	氏 名	所 属
100m	12.05	熊 崎 香	2010	12.55	竹 腰 奈 未	斐 太 高
200m	25.24	成 原 沙 羅	2015	25.99	宮 前 鼓	飛騨高山高
400m	56.59	松 嶋 真 矢	2018	57.25	松 嶋 真 矢	志 学 館 大
800m	2:07.73	塚 中 彩 海	2013	2:16.89	上 村 莉 沙	益田清風高
1500m	4:22.52	青 木 和	2014	4:40.19	上 村 莉 沙	益田清風高
3000m	9:09.55	青 木 和	2013	9:38.01	上 村 莉 沙	益田清風高
5000m	15:46.19	野 村 沙 世	2010	17:06.32	川 上 莉 桜	益田清風高
10000m	32:33.83	野 村 沙 世	2010			
100mH	14.12	山 下 凜	2018	14.93	水小瀬優芽	飛騨高山高
400mH	1:01.33	松 嶋 真 矢	2018	1:01.56	宮 前 鼓	飛騨高山高
3000msc	11:04.51	松 山 芽 生	2013			
5000mW	26:04.74	岩 長 沙 知	2013	28:21.17	山 下 莉 来	益田清風高
4×100mR	48.34	中村光希・大前のか 鎌倉里穂・熊崎香	2018	49.49	三木杏奈・清水真帆 水小瀬優芽・宮前鼓	飛騨高山高
4×400mR	3:59.31	池田紗矢香・香垣内結衣 谷口ゆいか・松嶋真矢	2017	4:08.39	菅沼琴音・片桐未悠 玉田心愛・清水ひより	斐 太 高
走高跳び	1.68	日 焼 尚 子	1981	1.54	花 川 心 海	斐 太 高
走幅跳び	5.90	中 村 光 希	2012	5.10	榎 森 結 女	飛騨高山高
三段跳び	12.23	小 坂 知 子	2011	10.76	直 井 陽 奈	岐 阜 大
砲丸投げ	12.68	齋 藤 真 理	2017	12.54	笠 井 柚 花	志 学 館 大
円盤投げ	39.70	齋 藤 真 理	2017	30.69	矢 島 風 彩	益田清風高
ハンマー投げ(4000g)	43.61	杉 山 郁 香	2012	38.43	橋 本 み な み	高 山 西 高
やり投げ	56.14	中 田 寛 乃	2018	51.37	中 田 寛 乃	愛 教 大
やり投げ(〜'99)	43.48	宮 川 よ し 子	1978			
七種競技	4039	水小瀬優芽	2019	4039	水小瀬優芽	飛騨高山高

※道路競技(10km、10マイル、20km、ハーフマラソン、30km、35km、マラソン、10kmW、20kmW、駅伝競走等)の飛騨記録は省略しました。

2019年度は、『第11回:ぎふ清流駅伝』において、飛騨地区陸上競技協会にとっては実に喜ばしい結果が得られましたので、ここに記録を残しておきたいと思います。

●男子の部

2019年度までの飛騨記録				2019年度のベスト記録		
種 目	記 録	氏 名	年 度	記 録	氏 名	所 属
100m	10.75	戸 崎 暢 介	2016	11.03	中井龍之介	飛騨高山高
200m	21.67	戸 崎 暢 介	2016	22.12	大坪龍之介	斐 太 高
400m	48.24	梶 晃 太 朗	2016	48.48	野 村 航 史	斐 太 高
800m	1:53.05	日下部佳佑	2002	1:55.97	山 本 篤 信	高 山 西 高
1500m	3:48.02	中 西 亮 貴	2017	3:58.33	山 下 唯 心	斐 太 高
3000m	8:24.18	安 田 響	2018	8:48.72	山 下 唯 心	斐 太 高
5000m	13:56.47	中 川 拓 郎	2002	14:14.37	熊 崎 貴 哉	高 山 西 高
10000m	29:03.27	中 西 亮 貴	2017	29:23.68	安 田 響	神 奈 川 大
110mH	14.94	朝 熊 剛 康	2017	15.28	浅 田 晃 史	斐 太 高
400mH	53.39	山 岸 祐 二	1996	54.19	浅 田 晃 史	斐 太 高
3000msc	9:09.96	山 下 右 将	2004	9:16.79	清 水 宝	斐 太 高
5000mW	21:57.85	今 井 裕 太	2003	24:45.42	岩 島 昇 汰	益田清風高
10000mW	44:02.36	下 林 正 義	2010			
4×100mR	42.18	門谷颯星・古橋佑季 吉本昇平・川崎直人	2015	42.92	田中廉治郎・野村航史 浅田晃史・大坪龍之介	斐 太 高
4×400mR	3:14.89	野村航史・島尻裕太郎 田中廉治郎・大坪龍之介	2019	3:14.89	野村航史・島尻裕太郎 田中廉治郎・大坪龍之介	斐 太 高
走高跳び	2.13	坂 谷 幸 紀	1986	1.95	中 井 翔 輝	岐阜協立大
棒高跳び	4.41	田中廉治郎	2019	4.41	田中廉治郎	斐 太 高
走幅跳び	7.68	長 尾 勇 佑	2012	6.97	佐 脇 匠	SELECT
三段跳び	16.12	佐 脇 匠	2016	14.94	佐 脇 匠	SELECT
砲丸投げ(7.26kg)	14.06	成 瀬 雅 哉	2017	9.77	上 田 良 樹	岐 阜 大
円盤投げ(2.0kg)	40.75	上 田 良 樹	2019	40.75	上 田 良 樹	岐 阜 大
ハンマー投げ(7.260kg)	42.76	谷口瑛一郎	2005	28.05	西 川 亮 也	斐 太 高
やり投げ	74.57	齋 藤 文 孝	2016	67.17	神 戸 幹 也	岐阜協立大
十種競技	6212	盤 所 諭	2008			

区 間	第1位:下呂市		第2位:高山市	
	氏 名	記 録	氏 名	記 録
1区(高校女子)	上 村 莉 沙	11分26秒	一ノ瀬穂南	11分21秒
2区(中学女子)	熊 崎 七 美	7分36秒	山 腰 亜 依	6分49秒
3区(小学女子)	今 井 梨 穂	5分43秒	田 中 千 晶	5分24秒
4区(中学女子)	黒 木 咲 帆	7分33秒	住 野 友 理	6分58秒
5区(40歳以上)	名 和 武 也	7分03秒	岡 野 光 知	8分06秒
6区(小学男子)	森 亮 太	5分37秒	橋 本 侑 紀	6分04秒
7区(高校男子)	天 野 佑 哉	17分14秒	中 洞 将	15分57秒
8区(一般高校男子)	谷 口 貴 亮	16分25秒	熊 崎 貴 哉	16分42秒
9区(中学男子)	中 川 拓 海	10分31秒	大 野 拓 真	10分21秒
10区(一般高校女子)	細 江 美 玖	18分56秒	渡 辺 紗 衣	20分26秒
総 合 記 録	1時間48分04秒		1時間48分08秒	

(理事長 新屋 幹男)



トピックス

天皇陛下御即位記念
2019ジャパンパラ陸上競技大会

「大会を終えて」

一般社団法人
日本パラ陸上競技連盟
NTO兼岐阜大会総務 吉田 徹

2019年7月20日(土)～7月21日(日)の2日間にわたり長良川競技場で開催された「天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラ陸上競技大会」は、参加選手数が300人を超える国内最高峰のパラ陸上競技大会として開催されました。今大会は海外の有力選手を招待し、2020東京パラリンピックにつながる大会として開催され、世界新記録1、アジア新記録4、日本新記録30の更新がありました。

岐阜県出身の選手は20名が参加し、日本新記録2、大会新記録5を更新しました。

●日本新記録

T46(上肢障がい)	石田駆選手(愛知学院大学)	100m 11秒18(+1.4) 400m 49秒89
------------	---------------	--------------------------------

●大会新記録

T12(視覚障がい)	山路竣哉選手(LINE)	200m 23秒57(+0.3)
F12(視覚障がい)	永野陽希選手(岐阜盲学校)	砲丸投(7.26kg) 9m99
T20(知的障がい)	岐阜障がい者アスリートクラブ 女子4×100mR	57秒87 1走:伊藤綾音(各務原特支) 2走:嶋田桃子(打江精機) 3走:氷野佳奈(岐阜大学職員) 4走:古畑穂波(岐阜清流高等特支)

今大会は、World Para Athleticsの国際大会として運営され、国内初のパラ国際大会となりました。岐阜陸上競技協会のこれまでの経験を活かした競技大会運営に対し、日本障がい者スポーツ協会並びに日本パラ陸上競技連盟からも高い評価を得ました。

また、2019ドーハ世界選手権の代表選考会も兼ねており、パラアスリートの大会にかける気合と情熱が感じられました。T46(上肢機能障がい)100mに出場した石田駆選手は、今大会で世界パラ選手権の派遣標準記録を突破し、11月に行われた2019ドーハ世界選手権で5位入賞を果たすなど、国際舞台で活躍するきっかけとなった大会となりました。石田選手は「日本記録を出せてうれしい。東京パラリンピックにも出たい。」と国際大会で戦うための自信や意欲を培うことができました。

今回のパラ陸上競技大会で、障がいのある選手が車いすや義足などを使用し、自己の障がいを乗り越え、限界に挑む活躍を記憶にとどめた人も少なくないと思われます。普段の陸

上競技とは異なる国内最高峰のパラ陸上競技大会を岐阜県で開催できたことは、障がいのある方への理解とパラ陸上競技の魅力を発信できる良い機会であったと感じています。

今大会の競技運営は、2020東京パラリンピックの審判養成のため、全国各地からJAAF-NTOとJPA-NTOも審判員として参加し審判実務に携わりました。岐阜陸上競技協会のサポートのなか、経験を積めたことはNTOにとって東京パラリンピックにつながる絶好の機会となりました。

最後に、今大会を開催するにあたり、岐阜陸上競技協会が中心となり、日本陸連、日本パラ陸連、岐阜県や協力企業の支援を得て、長良川競技場の施設設備の充実を図っていただいたこと、岐阜陸上競技協会の競技役員の皆様が、「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」以降培ってこられた大会運営力を最大限に発揮され、本大会を成功に導いていただいたことに対し心より感謝を申し上げます。

【岐阜県出身のパラアスリートの紹介】

2020東京パラリンピックにおいても、出場及び活躍が期待されています。



〈岐阜新聞社提供〉

石田 駆／各務原市在住
岐阜聖徳学園大付属高卒
愛知学院大学在学

T46(上肢機能障がい)

■競技歴

〈国際大会〉

・2019 世界パラ陸上競技選手権大会(ドバイ)
T46・100m 11"25 準決勝敗退
400m 49"44 第5位

・IPC世界ランキング

(2020.1.31現在)
T46 100m11"18(19位)
400m49"44(5位)

〈国内大会〉

・2019 日本パラ陸上競技大会選手権大会
T46・100m優勝 400m優勝
・ジャパンパラ陸上競技大会
T46・100m優勝 400m優勝

・日本記録

(2020.3.31現在)
T46 100m11"18
400m49"44



〈岐阜新聞社提供〉

山路竣哉／土岐市出身 岐阜盲学校卒 LINE所属
T12(視覚障がい)

■競技歴

〈国際大会〉

・IPC陸上競技選手権大会2015
T12・100m準決勝敗退 200mDNS
・WPAドバイグランプリ(ドバイ) 2017
T12・100m(銅) 200m第5位
・アジアパラ競技大会(ジャカルタ) 2018
T12・100m(銀) 200m NR
・WPA中国大会(北京) 2018
T12・100m(金) 200m(金)

〈国内大会〉

・日本パラ陸上競技選手権大会2017・2018
T12・100m優勝 200m優勝
・ジャパンパラ陸上競技大会2017・2018
T12・100m優勝2回 200m優勝2回
100m(11'28) 200m(23'11)

・2019 世界パラ陸上競技選手権大会(ドバイ)
T12・100m 11'37(予選敗退)
・日本パラ陸上競技大会選手権大会
T12・100m優勝 200m優勝
・ジャパンパラ陸上競技大会
T12・100m優勝 200m優勝
・IPC世界ランキング(2020.3.31現在)
T12 26位(100m11'25)
日本記録(2020.3.31現在)



〈岐阜新聞社提供〉

田中照代／土岐市出身・多治見西高卒 TIR所属
T52(車いす)

■競技歴

〈国際大会〉

・IPC陸上競技選手権大会1994～2011
T51・800m(金) WR T52・200m(銀)
T53・200m(金) 800m(金)
T52・100m(銅) 200m(銅) 400m(銅)
800m(銅) AR
・世界パラ陸上競技選手権大会2017(ロンドン)
T52・100m(金) 400m(金)
・パラリンピック・アトランタ・シドニー・北京・ロンドン
T52・800m(金・銀) WR・200m(銀・5位)
1500m(銀)・100m(銅・6位)

〈国内大会〉

・日本パラ陸上競技選手権大会2017～2018
T52・100m優勝2回 400m 200m優勝
400m優勝2回
・ジャパンパラ陸上競技大会2017～2018
T52・100m優勝2回 400m優勝2回

・2019 世界パラ陸上競技選手権大会(ドバイ)
T52・100m 22'85(銀)
・日本パラ陸上競技大会選手権大会
T52・100m優勝 400m優勝
・ジャパンパラ陸上競技大会
T52・100m優勝 400m優勝
・IPC世界ランキング(2020.3.31現在)
T52 2位(100m22'85)
・日本記録(2020.3.31現在)
T52 400m(1'15'46)
800m(2'18'25)

(岐阜パラ陸上担当 高井 繁喜)

天皇賜盃第88回 日本学生陸上競技対校選手権大会

「大会総括」



東海学生陸上競技連盟
ヘッドコーチ 黒須 雅弘

2019年9月12日(木)～15日(日)、岐阜県メモリアルセンター長良川競技場にて、天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。

今大会は、8月にイタリア・ナポリにて行われたユニバーシアード競技会の走幅跳で金メダルを獲得した橋岡優輝選手(日本大)、ハーフマラソンで男女ともに表彰台を独占したことから男女5000mと10000m、そして前回大会で女子4×400mRの日本学生新記録を更新した日本体育大学に注目が集まりました。

その注目の男子走幅跳では、津波響樹選手(東洋大)が8m08で初優勝、続いて橋岡選手が7m94という結果でした。ユニバーシアード競技会では同じ日本チームで支えあった2人の熱い戦いに観客が引き込まれました。また、今大会は、岐阜県出身の跳躍選手の活躍が目立ちました。男子三段跳では伊藤陸選手(近畿大工業高専)がU20日本新記録を更新する16m34で初優勝。女子三段跳では河合葉奈選手(大阪成蹊大)が大会新記録とU20日本新記録を塗り替える13m65を跳びました。男子走高跳は、赤松諒一選手(岐阜大院2)が同大会自身3度目の優勝、井戸田魁選手(中京大)が3位、女子棒高跳で若園茜選手(筑波大)が優勝という地元開催に華を添える4日間となりました。

本大会開催にあたって、事前準備から大会当日の運営にわたり、岐阜陸上競技協会の皆様による多大なご尽力により滞りなく競技日程を消化することができました。また、岐阜協立大をはじめ地元大学の皆さんにも連日多くの審判と補助役員の参加協力も併せてお礼申し上げます。

最後に、2019年大会はU20日本新記録2つと大会新記録1つという充実した大会となりました。こうして無事に本大会を開催することができたのも、関係各位のご支援、ご協力があったことと深く感謝する次第であります。2020年大会は、新潟県新潟市ビッグスワンスタジアムにて第89回大会を開催いたします。今後ともご支援、ご協力を何卒よろしくお願い致します。

【活躍した岐阜県出身者紹介】



赤松 諒一

岐阜県立加納高校 → 岐阜大学 → 岐阜大学大学院
 日本学生陸上競技対校選手権大会 走高跳 2m24cm 優勝
 ※第84回(2015年)、86回(2017年)大会でも優勝し、自身3回目の優勝。

- ・自己最高記録 2m25cm
- ・2019年度自己記録 2m24cm
- ・2019年度日本ランキング 7位
- ・2019年度学生ランキング 2位



井戸田 魁

岐阜県私立美濃加茂高校 → 中京大学
 日本学生陸上競技対校選手権大会 走高跳 2m18cm 3位
 ・自己最高記録 2m18cm
 ・2019年度自己最高記録 2m18cm
 ・2019年度日本ランキング 12位
 ・2019年度学生ランキング 6位

(東海学生陸上競技連盟・総務 吉田 大介)



若園 茜

岐阜県立岐阜商業高校 → 筑波大学 → 筑波大学大学院
 日本学生陸上競技対校選手権大会 棒高跳 4m00cm 優勝
 ・自己最高記録 4m00cm
 ・2019年度自己最高記録 4m00cm
 ・2019年度日本ランキング 6位
 ・2019年度学生ランキング 3位



お 知 ら せ

岐阜陸上競技協会事務所を移転しました

新住所 〒502-0851 岐阜市鷺山2562番地28

次 号 紹 介

2021年7月発行予定です

編 集 委 員

木下 克己	原 清隆	山田 緑
河野 康彦	江崎 尚	小川 秀一
安福 弘典	坂谷 幸紀	

